

3 母子世帯・父子世帯

(1) 労働力状態

一子供の数別労働力率は、「3人以上」が母子世帯で最も低く、父子世帯で最も高い

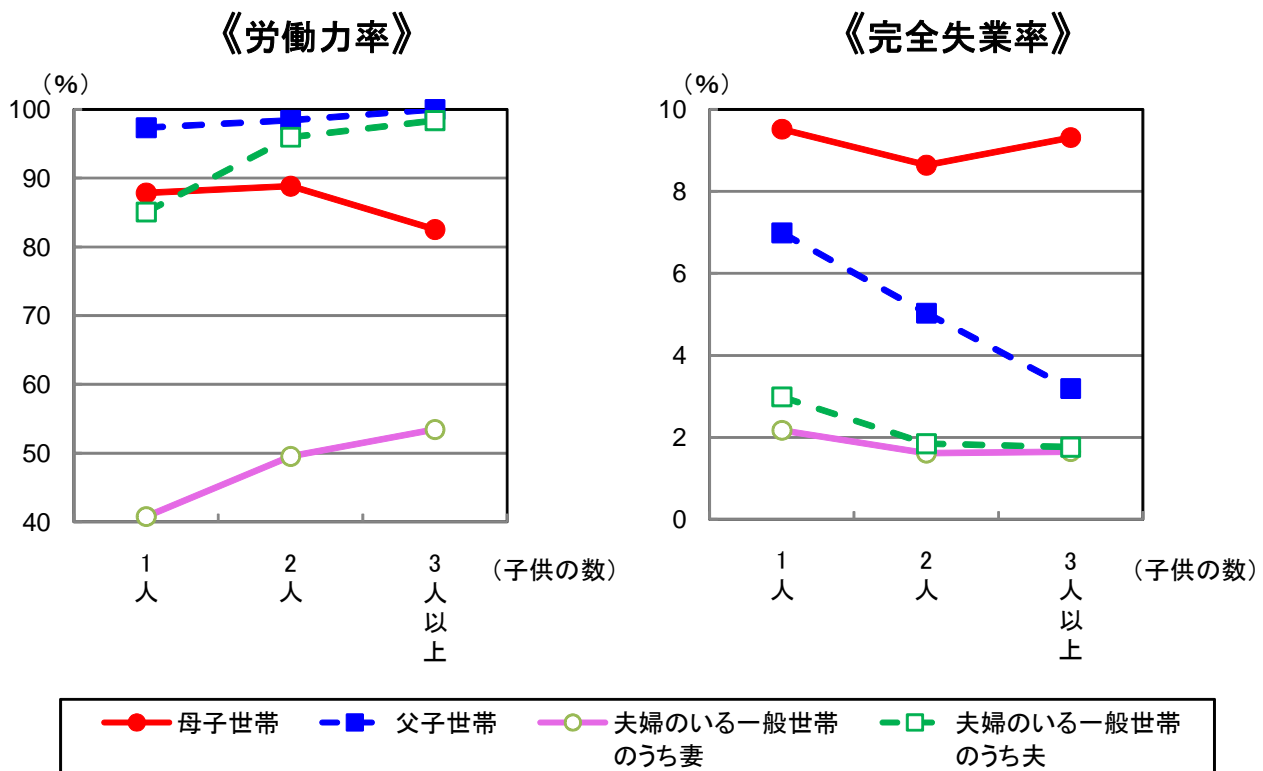
母子世帯の母の労働力率（労働力状態「不詳」を除く母子世帯総数に占める労働力人口の割合）を、子供の数（3区分）別にみると、子供の数が「1人」（87.9%）と「2人」（88.8%）ではあまり変化がありませんが、「3人以上」（82.5%）になると「2人」に比べて6.3ポイント低下しています。「夫婦のいる一般世帯のうち妻」と比較すると、子供の数が増えるにしたがいその差は縮小するものの、母子世帯の母が大きく上回っています。

同様に父子世帯の父をみると、子供の数が増えるにしたがいわずかながら高くなっており、特に「3人以上」では100%となっています。「夫婦のいる一般世帯のうち夫」と比較すると、同様な傾向にはあるものの、父子世帯の父がいずれの区分でも上回っています。

母子世帯の母の完全失業率（労働力人口に占める完全失業者の割合）を子供の数別にみると、「1人」（9.5%）が最も高くなっており、「2人」（8.6%）が最も低くなっています。「夫婦のいる一般世帯のうち妻」と比較すると、その差は大きく、母子世帯の母が上回っています。

同様に父子世帯の父の完全失業率を子供の数別にみると、母子世帯の母とは異なり、子供の数が増えるにしたがい大きく低下する傾向にあります。「夫婦のいる一般世帯のうち夫」もその傾向は変わりませんが、いずれの区分においても父子世帯の父が上回っています。（図6）

図6 母子世帯、父子世帯及び夫婦のいる一般世帯の、子供の数（3区分）別労働力率及び完全失業率（H17）



(2) 就業時間

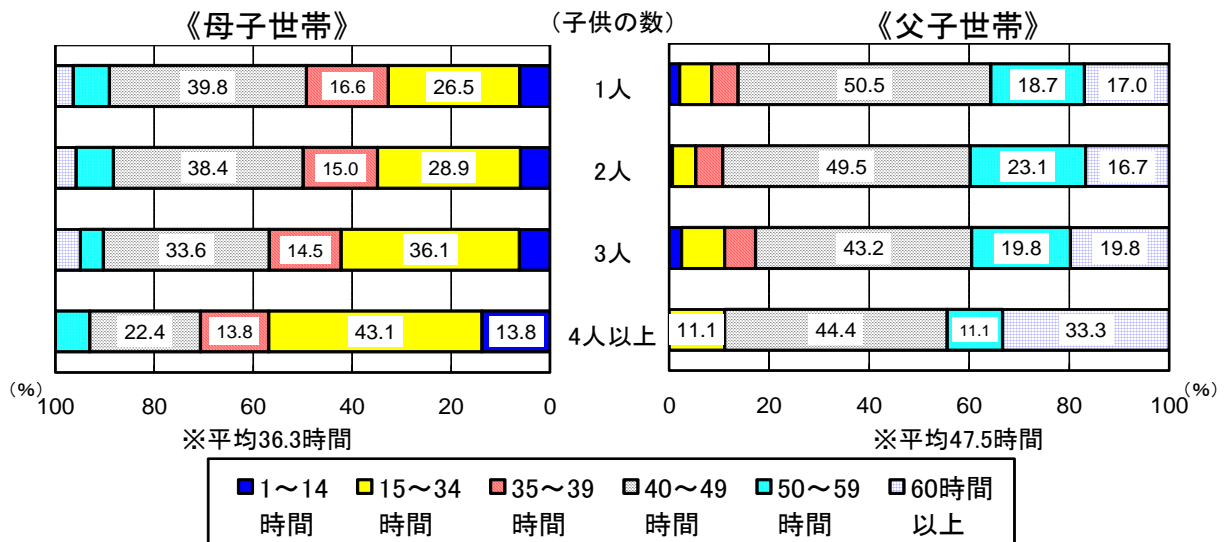
一 母子世帯の母の週間就業時間は、子供の数が増えるにしたがい減少一

母子世帯の母の、一週間の就業時間（6区分）別の就業者割合を、子供の数（4区分）別にみると、子供の数が「1人」及び「2人」では「40～49時間」が最も高く、「3人」及び「4人以上」では「15～34時間」が最も高くなっています。子供の数が増えるにしたがい、就業時間は減少する傾向にあります。

同様に父子世帯の父をみると、全ての区分において「40～49時間」が最も高くなっています。

母子世帯の母と父子世帯の父を比較すると、父子世帯の父の平均週間就業時間が11.2時間ほど多くなっており、子供の数にかかわらず、40時間以上の各区分において、母子世帯の母より高くなっています。（図7）

図7 母子世帯の母及び父子世帯の父の子供の数(4区分)別就業時間(6区分)別割合(H17)

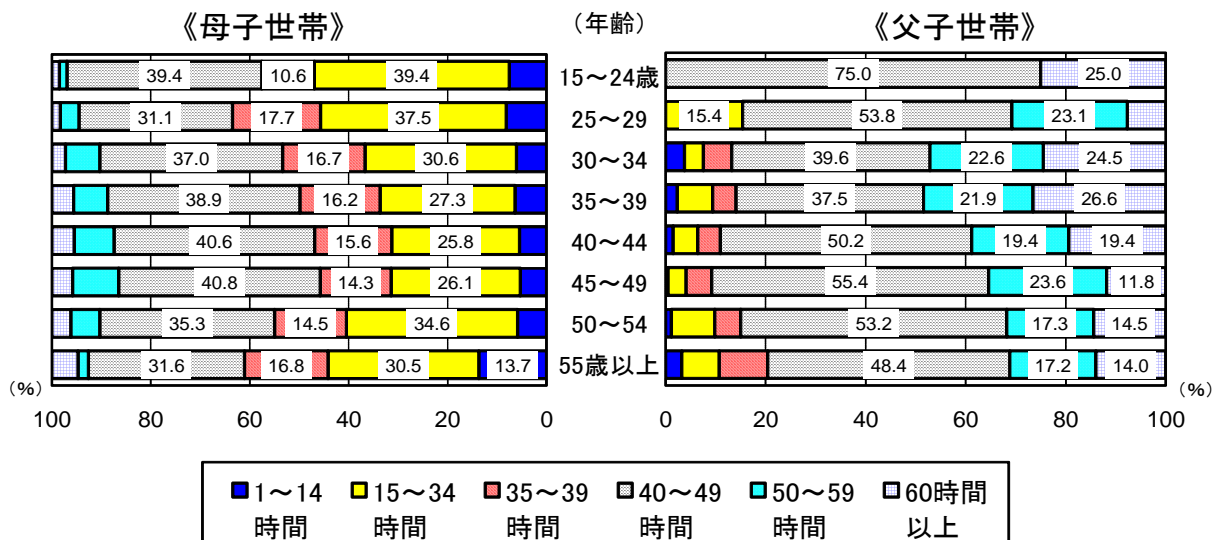


一 父子世帯の父の週間就業時間は、いずれの年齢階級においても「40～49時間」が最も高い一

次に、母子世帯の母の年齢（5歳階級）別に就業時間（6区分）別の就業者割合をみると、30歳以上のどの年齢階級においても、「40～49時間」が最も高くなっています。特に35歳から49歳までの各年齢階級において、40時間以上就業している人の合計が50%を超えています。

同様に父子世帯の父をみると、やはりいずれの年齢階級においても「40～49時間」が最も高く、「55歳以上」を除いて40時間以上就業している人の合計が80%を超えています。（図8）

図8 母子世帯の母及び父子世帯の父の年齢(8区分)別就業時間(6区分)別割合(H17)



(3) 職業

—母子世帯の母は、多くの年齢階級で「事務従事者」の割合が高い—

母子世帯の母について、年齢（5歳階級）別に職業大分類別の就業者割合をみると、「15～24歳」では「サービス職業従事者」（33.3%）が、「55歳以上」では「生産工程・労務作業」（29.5%）が、他の年齢階級では「事務従事者」が最も高くなっています。

「専門的・技術的職業従事者」は、年齢とともに拡大し「45～49歳」（18.1%）でピークを迎え、その後縮小していきます。「事務従事者」も同様な傾向にありますが、「35～39歳」（37.7%）と少し早めにピークを迎えます。一方「販売従事者」は年齢とともに縮小し、「35～39歳」（11.4%）で最も小さく、その後拡大し、「55歳以上」（13.7%）で再度縮小します。「サービス職業従事者」も同様な傾向にありますが、最も小さくなるのが「45～49歳」（16.6%）と少し遅めになっています。「生産工程・労務作業」は15歳から54歳までいずれの年齢階級においても10%台ですが、「55歳以上」（29.5%）になると大きく拡大しています。（図9）

図9 母子世帯の母の年齢(8区分)別職業(大分類)別割合(H17)

